

2. 取組を進めるに当たり困難であった事例
- D. 産業界、地域社会等多様な社会部門と連携した人材養成機能の強化
- ③キャリアパス形成を支援するための体制整備や、社会的・職業的自立に向けた情報提供

取組を進めるに当たり困難であった事例について

D. 産業界、地域社会等多様な社会部門と連携した人材養成機能の強化

③キャリアパス形成を支援するための体制整備や、社会的・職業的自立に向けた情報提供 《理工農系》

●東京医科歯科大学生命情報科学教育部バイオ情報学専攻 「国際産学リンケージプログラム」の事例

(具体的に何を実施し、何が困難であったのか)

キャリアパス形成の支援体制としては、大学院生への相談窓口を常時開設することとした。特に希望する大学院生にはプロフェッショナルなコーチを招いたキャリアコーチングを実施した。また、企業のエグゼクティブを招聘したセミナーの企画実施を行った。概ねどの試みも大学院生には好評であったが、コーチングに関しては大学院生から大変好評であったにもかかわらず、学内においてその継続的なコーチングシステムを準備するには至らなかった。

(苦労したこと、困難であったことの具体的な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか)

アンケートによるとキャリアコーチングの効果が高く非常に好評であったが、コーチとコーチを受ける学生との間の秘守性などがあり、具体的な成果を計測する上で課題があった。また、常に外部のコーチに依存する形になるために、教員のキャリア相談力の短期間での向上が課題であった。

(どのように対応し、どのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか)

コーチングが、コーチの技術に大きく依存し、コーチとコーチを受ける学生の2者で実施されることから、教員を交えたコーチングができず、教員のキャリア相談力向上が課題であった。そこで、コーチによるコーチング技術の講義・演習を実施することとした。コーチング技術を学ぶ対象として、大学院生、卒業生、教員が参加した。アンケートによると、コーチング研修は、大学院生、卒業生、教員のそれぞれに非常に好評であり、今後の継続的な講義・演習の希望が出された。

●名古屋大学多元数理科学研究科多元数理科学専攻 「学生プロジェクトを支援する数理科学教育」の事例

(具体的に何を実施し、何が困難であったのか)

企業から講師を招いての集中講義の実施や、本研究科OBとの交流を図る企業研究セミナーの開催を行った。これらは学部生や修士課程の学生には大きな成果を上げていると考え

- | |
|---|
| <p>2. 取組を進めるに当たり困難であった事例</p> <p>D. 産業界、地域社会等多様な社会部門と連携した人材養成機能の強化</p> <p>③キャリアパス形成を支援するための体制整備や、社会的・職業的自立に向けた情報提供</p> |
|---|

るが、後期課程の学生の参加は期待したものではなかった。

(苦勞したこと、困難であったことの具体的な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか)

後期課程の学生の希望進路は大学における研究職が大半であり、このことが広く企業等も視野に入れたキャリアパス形成のネックであった。このことが後期課程の志願者の大きな増加を阻んでいると考える。

(どのように対応し、どのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか)

学位取得後の進路の問題は社会的な問題であり研究科だけの取り組みには限界があるが、企業人、教員、学生間の情報交換をより進めることが大切であると考えます。